

斑点米カメムシ防除に



斑点米



アカスジカスミカメ



散布直後



約30秒後

豆つぶは自分で
拡がるから



アカヒゲホンミドリカスミカメ



クモヘリカメムシ

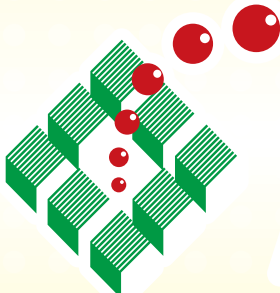


ホシハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

らくらく散布の



クミアイ

スタークル® 豆つぶ®

農林水産省登録
第22333号

スタークルは三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社の登録商標、豆つぶ®はクミアイ化学工業(株)の登録商標です。

田んぼに入らなくてもいいんです。
出穂7~10日後が散布適期です。



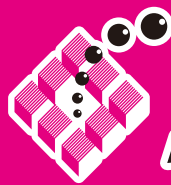
手散布
(幅20m以下)



ひしゃく散布
(幅30m以下)



注意事項 本剤は根から吸われて効果を発現しますので、湛水状態(水深3~5cm)で散布し、湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しをしないでください。



特長

1

斑点米カメムシ類防除に高い効果を発揮します。

有効成分のジノテフランは、ウンカ類やカメムシ類に対して高い殺虫効果を示します。加えて、カメムシ類に対する吸汁阻害効果を有し、効率的な斑点米抑制効果が期待できます。

2

省力散布剤です。

10アール当りの散布量が250gと少量で、手撒き散布のほか、専用ひしゃくを利用した散布、動力散布機での散布も可能です。

3

飛散防止に優れた製剤です。

「豆つぶ製剤」なので圃場周辺への薬剤飛散抑制に優れています。

4

拡散性に優れています。

少量散布でありながら、「豆つぶ製剤」が水面上を崩壊しながら自己拡散することで、有効成分が水田全面に速やかに、且つ均一に広がるのを促します。

5

水稻や環境への影響に配慮した製品です。

本剤は水稻に対する薬害が少なく、人畜、魚類、鳥類に対する毒性も低い環境負荷の少ない製品です。

■適用害虫と使用方法

作物名	適用害虫名	10アール当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	250g	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	250~500g				

■使い方のポイント

1 豆つぶ製剤は田面水表面を自己拡散して広がりますので、湛水状態で散布してください。なお、散布は田面全体に均一に行ってください。

2 水深は3~5cm程度で散布し、散布後4~5日間は水の出入りを止めて、7日間は落水・かけ流しをしないでください。また、深水は避けてください。

3 藻類・表層はく離などの浮遊物が多い条件では、拡散が不十分となり、効果不足が生じることがあるので、周縁部からの散布を避け、本田内で水田全面に均一に散布してください。

4 斑点米カメムシ類を対象とする場合、出穂後7~10日の散布をお勧めします。

散布後、状況に応じて追加防除をご検討ください。特に本田のカメムシ類の密度が低下しない場合や、割籾の多発が懸念される場合は追加防除を行ってください。カスミカメ類以外のカメムシ類が発生する地域では、本剤の使い方が異なる場合があります。また、追加防除にも注意を要するので、地域の病害虫防除所等の関係機関の指導を受けることをお勧めします。

※カメムシ類の繁殖源となる雑草や牧草が周囲にあると、カメムシ類の水田内への侵入が多くなり、斑点米被害も多発しやすくなります。

※水田内と水田周囲の草刈りなど雑草管理を出穂10日前までに行ってください。

●藻類などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布を避け、本田内で水田全面に散布してください。

●吸湿性があるので、濡れた手で作業したり、降雨で濡れたりすることがないように注意してください。また、開封後は早めに使用してください。

●稲の葉鞘部に豆つぶ剤がはさまると、局部的に薬害を生じることがありますが、収量への影響はありません。

●使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

■安全使用上の注意

●誤食に注意してください。

●眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。

●皮ふに付着しないよう注意してください。皮ふに付いた場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。

●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

●ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

・ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。

・関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

●散布に使用した器具、容器の洗浄水及び空袋等は河川等に流さないでください。

保管: 密封して、直射日光をさけ、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所。吸湿性があるので、使い残りは、開封口を密封して、湿気が入らないようにしてください。

本資料は平成29年7月現在の知見に基づいて作成されております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。